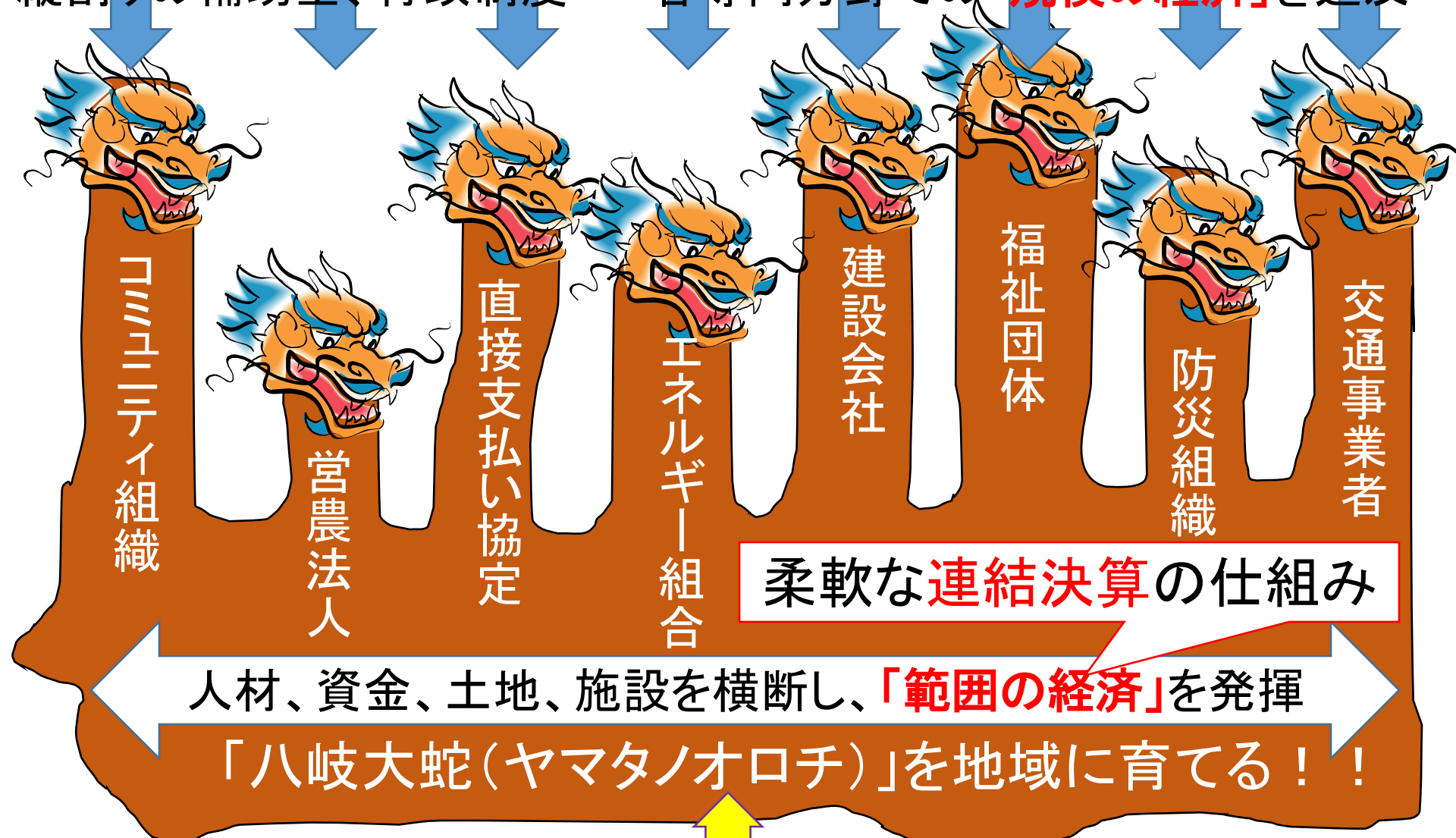


5. 合わせ技の組織・拠点を創る

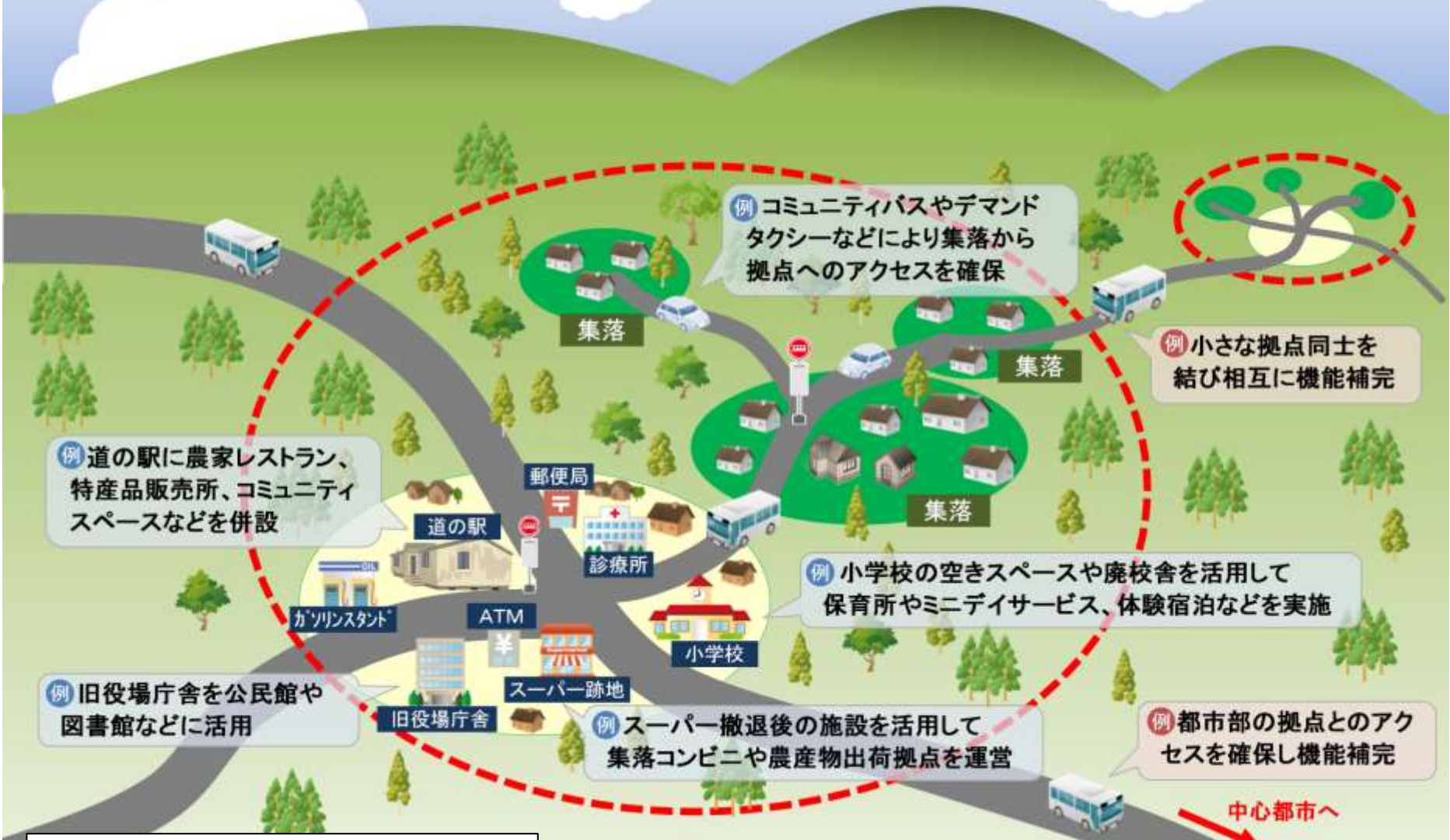
縦割りの補助金、行政制度 ~各専門分野での「規模の経済」を追及



「自然の利子」(食糧・エネルギー・資源)で支える条件優位性

国土のグランドデザインと総合戦略にも、集落地域を支える 新たな複合機能拠点として「小さな拠点」構想が登場

地元にて定住と循環の「砦」を創る



※実践編 「小さな拠点」づくりガイドブックより

新たな地域運営組織の形成エリア

＝ 一次生活圈

＝ 「小さな拠点」エリア

⇒ 「定住自治区」 のような自治と行政両面から位置づけへ

平均的な人口規模

● コミュニティ・行政単位の比較

数万人～20万人程度

定住自立圏

合併市町村

1,000～数万人

旧市町村

<平成の大合併> (中学校区など)
<昭和の大合併>

300～3,000人

昭和の旧村

(公民館区 現・旧小学校区) 「小さな拠点」

一次生活圈

二次生活圈

人口定住の基本的単位

結節機能

70～80人(中四国)
200～400人(東北・北海道)

大字

集落

組 (小字など)

<明治の大合併> (藩政村) * 地方によっては集落と重なる場合も

* 最も基礎的・伝統的な地域運営単位

集落単独では定住を支える基本機能や活動が困難

総合病院
大型店
高校等の機能共有

都市拠点とのネットワーク機能

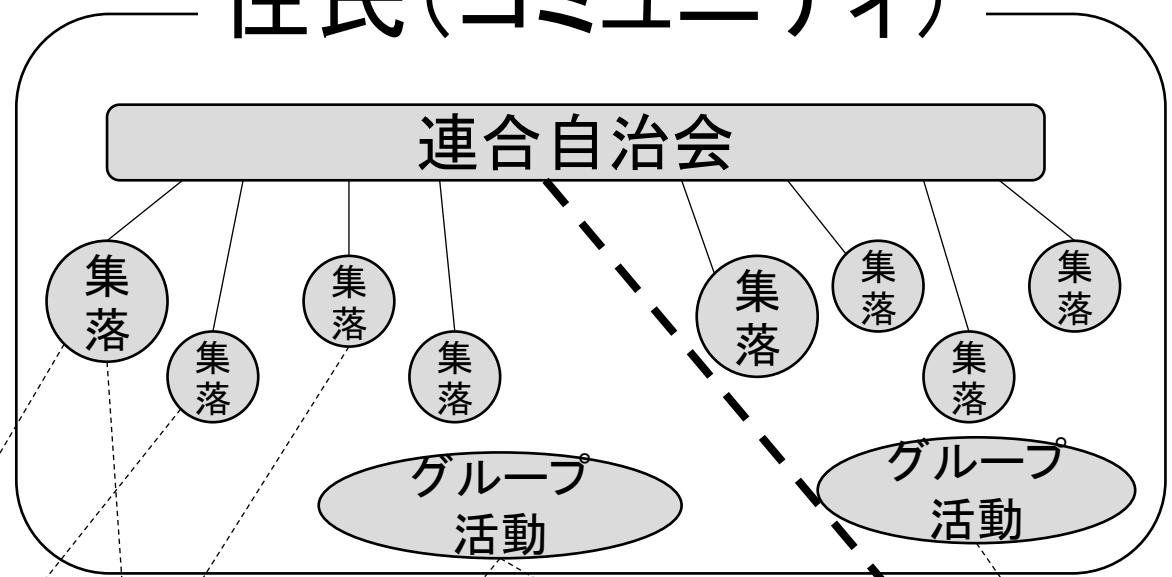
- ① コミュニティの地元単位
- ② 医療・福祉・教育・商業・交通等の一次機能

各集落とのネットワーク機能

従来型 地域運営 の問題点

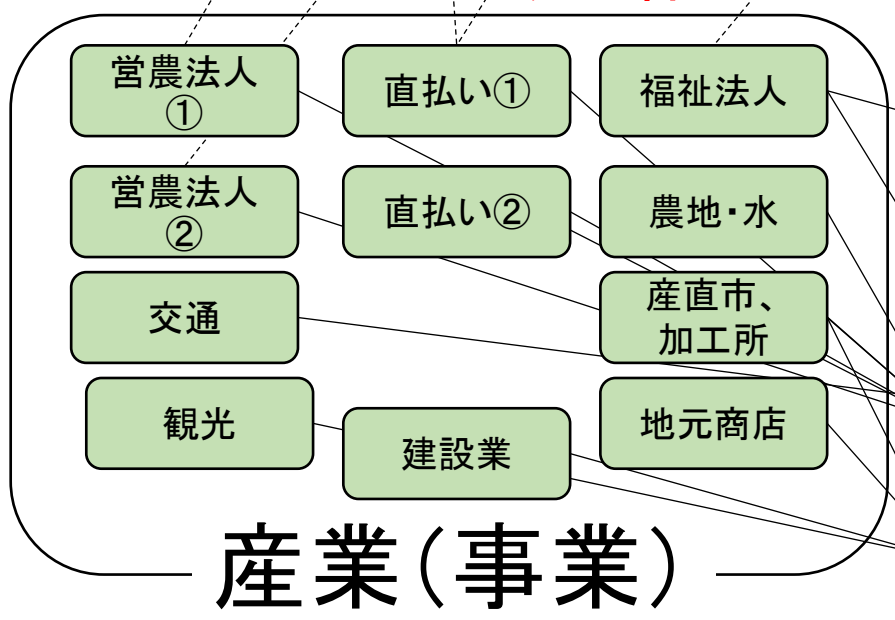
→地域の力が結集できない！！

住民(コミュニティ)



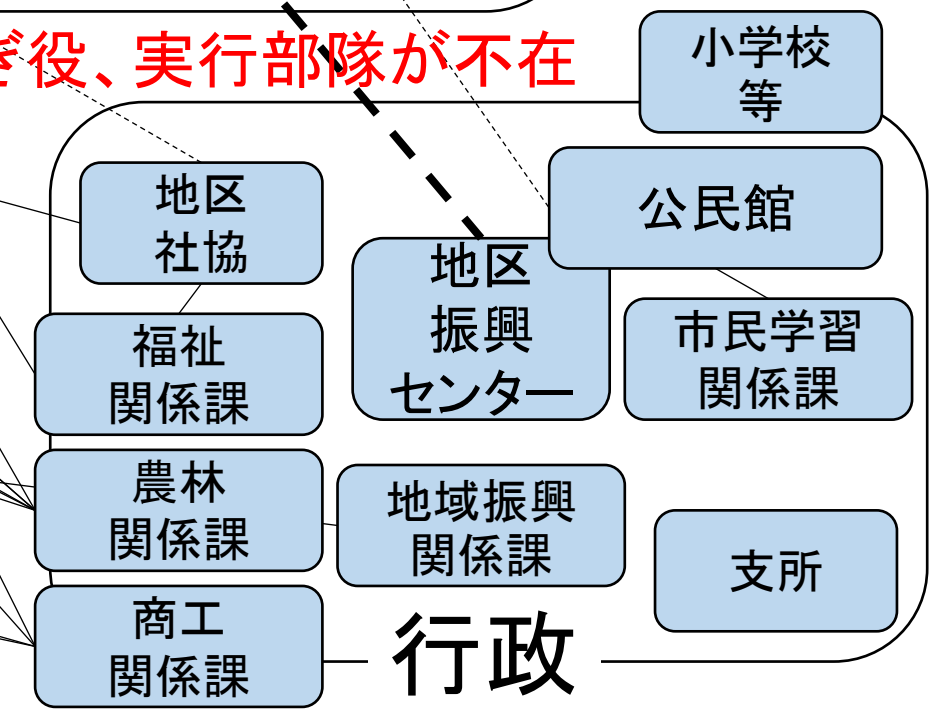
×横並びの取り組み、年間行事等の消化

×地域全体のつなぎ役、実行部隊が不在



産業(事業)

×事業体ごとの個別展開



行政

×分野ごとの縦割り対応・支援

新しい 地域運営 の三角形

住民（コミュニティ）

<分野連携>

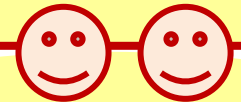
<地域連携>



運営委員会

- 防災部会
- 産業部会
- 定住部会
- 子育て部会
- 福祉部会

事務局



- 自治会・集落
- 自治会・集落
- 自治会・集落
- 自治会・集落

*単位再編も

●●地区振興協議会
(地域自治組織)

地域マネージャー
事務局スタッフ
兼務

人・財源・施設の地元移行

支援チーム
体制の構築

営農組織

エネルギー

産直加工

横つなぎ
型法人

商工関係

福祉関係

拡大
運営委員会
(円卓会議)

地区社協

関係各課

公民館

小学校等

地域振興
市民学習
農林、商工、福祉

横つなぎ型法人の設立(分野横断型)
複数事業の合せ技や会計業務の集約など

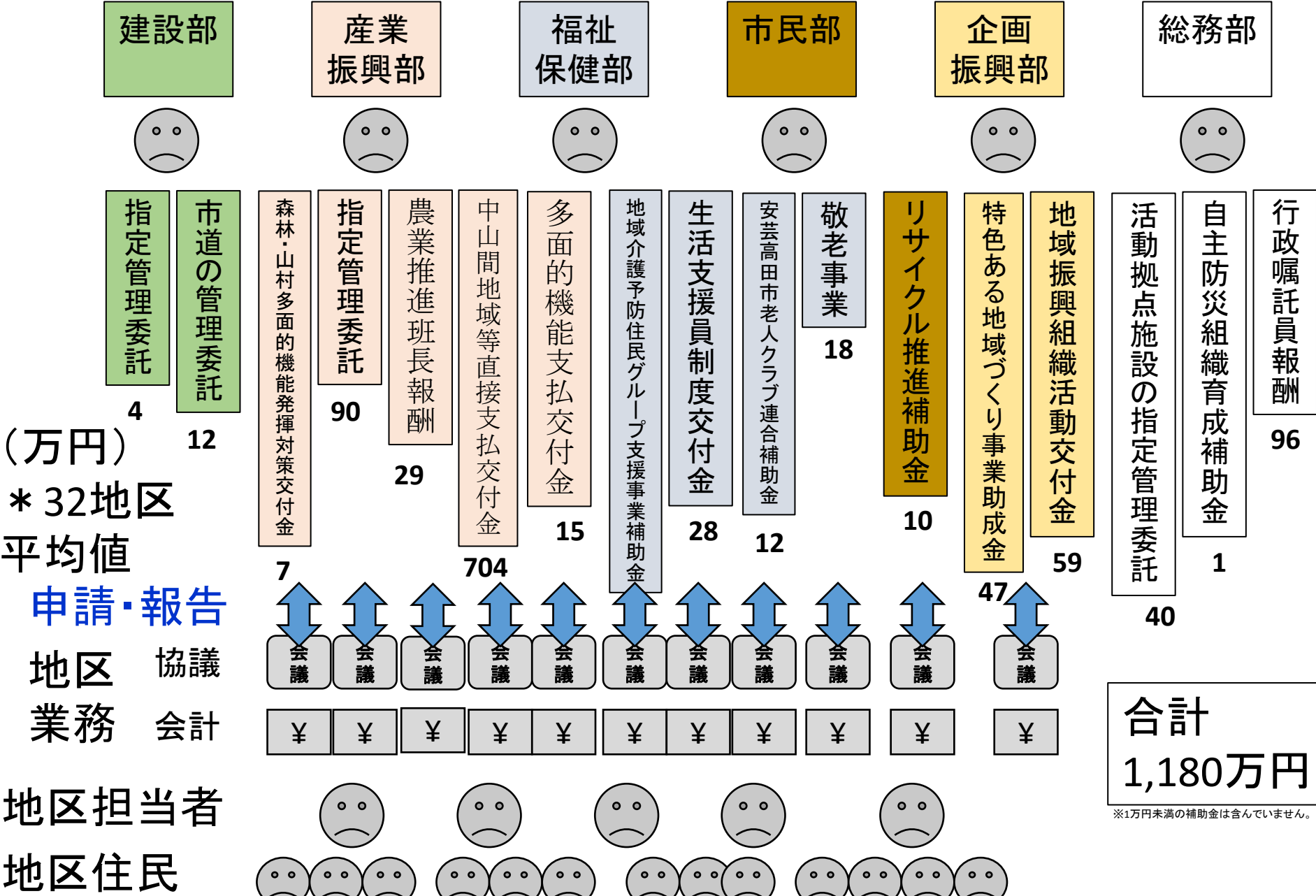
産業（事業）

地元の合意形成、取り組み支援のプロへ

●●地区支援チーム(分野横断型)
市役所職員現場配置+地区担当制
公平性・公正さへの配慮(地区内外)

行政

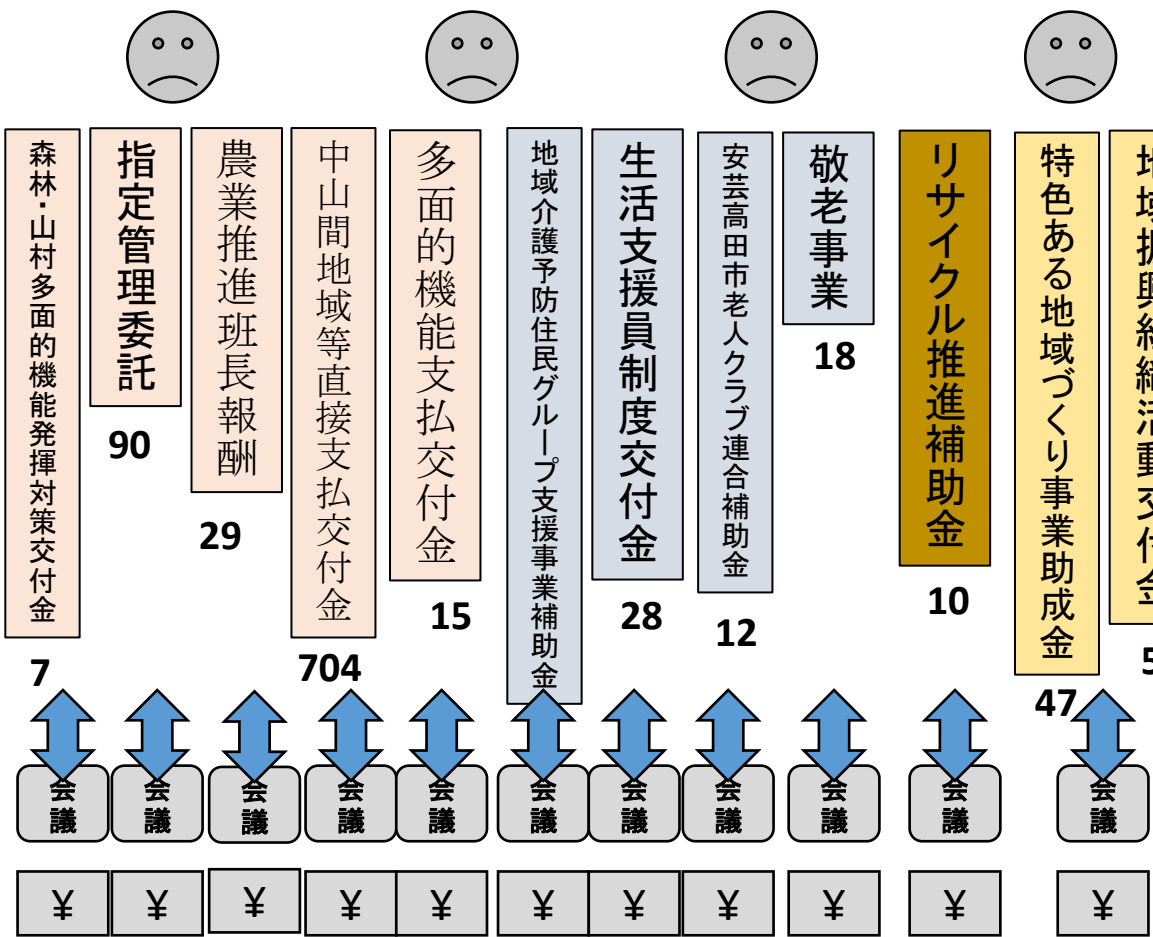
安芸高田市の場合 (企業や公共機関へのお金は除く、報酬含む)



(万円)
* 32地区
平均値

申請・報告
地区協議
業務会計

地区担当者
地区住民

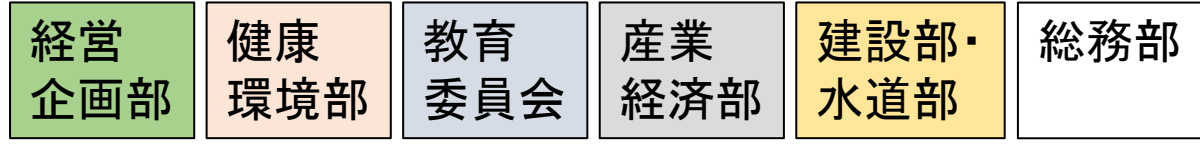


合計
1,180万円

※1万円未満の補助金は含んでいません。

同規模自治体事例(人口5万人クラス)

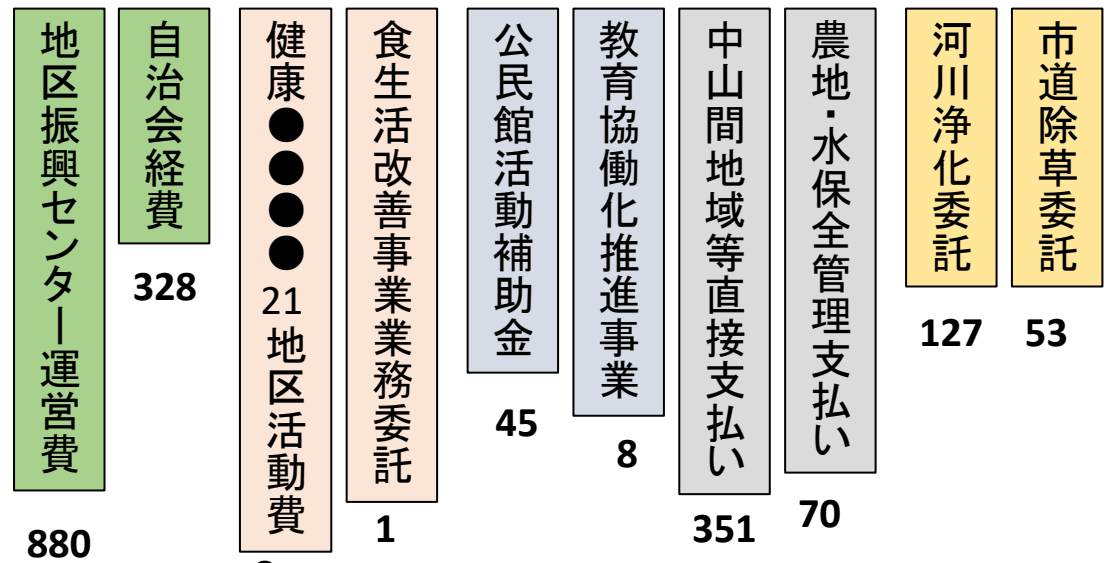
縦割り事例(M市)



20地区
まとめ
るのが
大変!

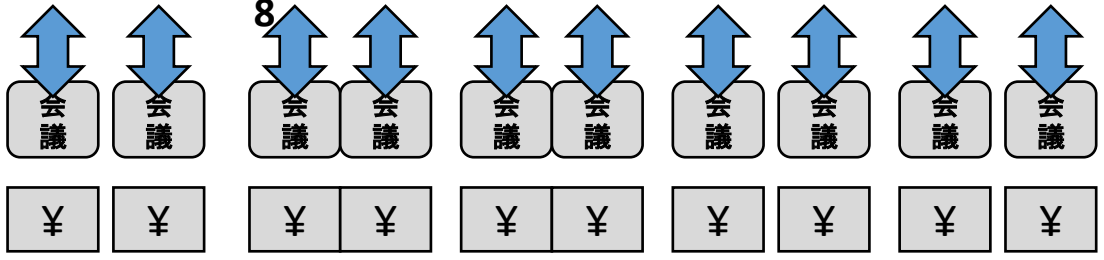
地区への
補助金
事例
(万円)

* 20地区
平均値



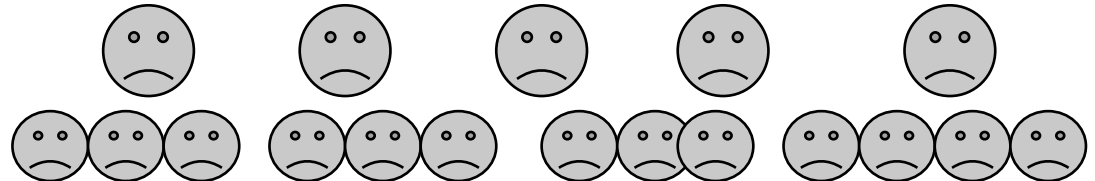
合計
1,880万円

申請・報告
地区協議
業務会計



会議、会計、
報告に追わ
れてばかり

地区担当者
地区住民



役のなり手
がおらん!

邑南町出羽地区の取り組み

●コミュニティ × ●農業 = 地域発展

● 地域自治組織の立ち上げ
(12集落→「出羽自治会」)

* 総務部、生活部、交流部、産業部の設置

将来像の共有

● 「出羽夢づくりプラン」の作成

1,764万円

● 直接支払い11協定の大合併

会計事務

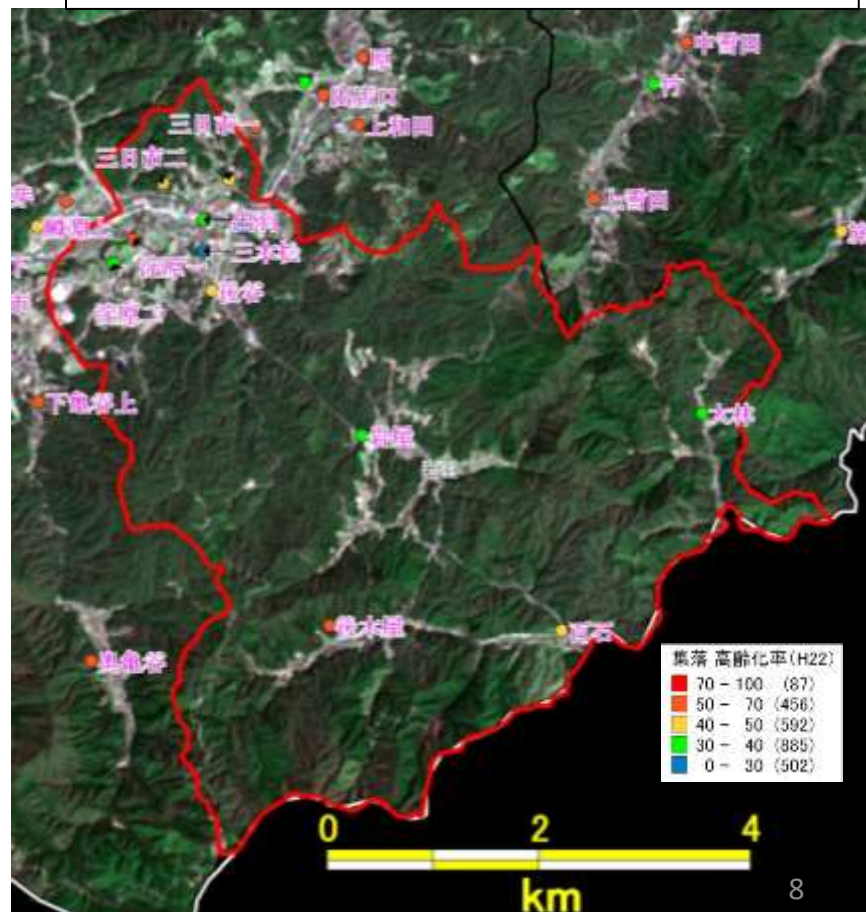
● 人材バンク
(お助け
隊) 設立

● 地域マ
ネージャー
雇用

● 耕作放棄地2ha再生

人口913人、高齢化率37.8%
集落数 12 (2010年)

出羽公民館区



出羽自治会

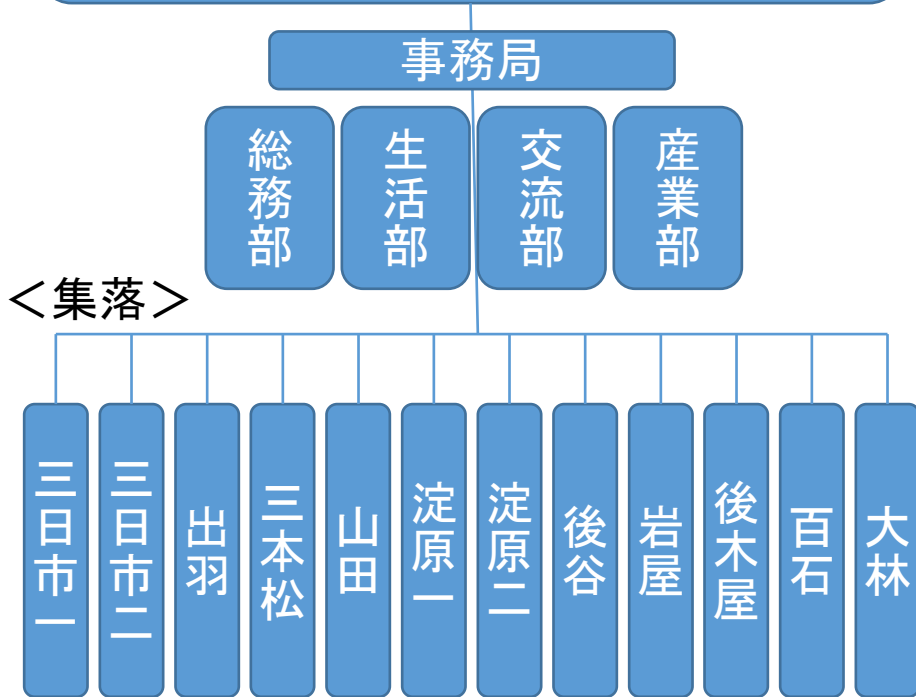
= 出羽公民館エリア



連携

合同会社 出羽

自治会の機能だけでは難しい、収益事業、空き家対策、産業等について、機動的に対応できる実働部隊として2013年に設立。資本金539万円 出資社員17名（設立時6万円、6名）



農業部門

農地集積32ha
放棄地活用
新規就農支援

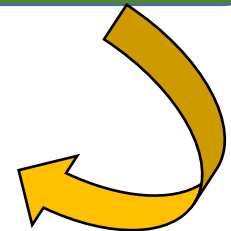
定住部門

空き家活用
(修繕、賃貸)
起業支援

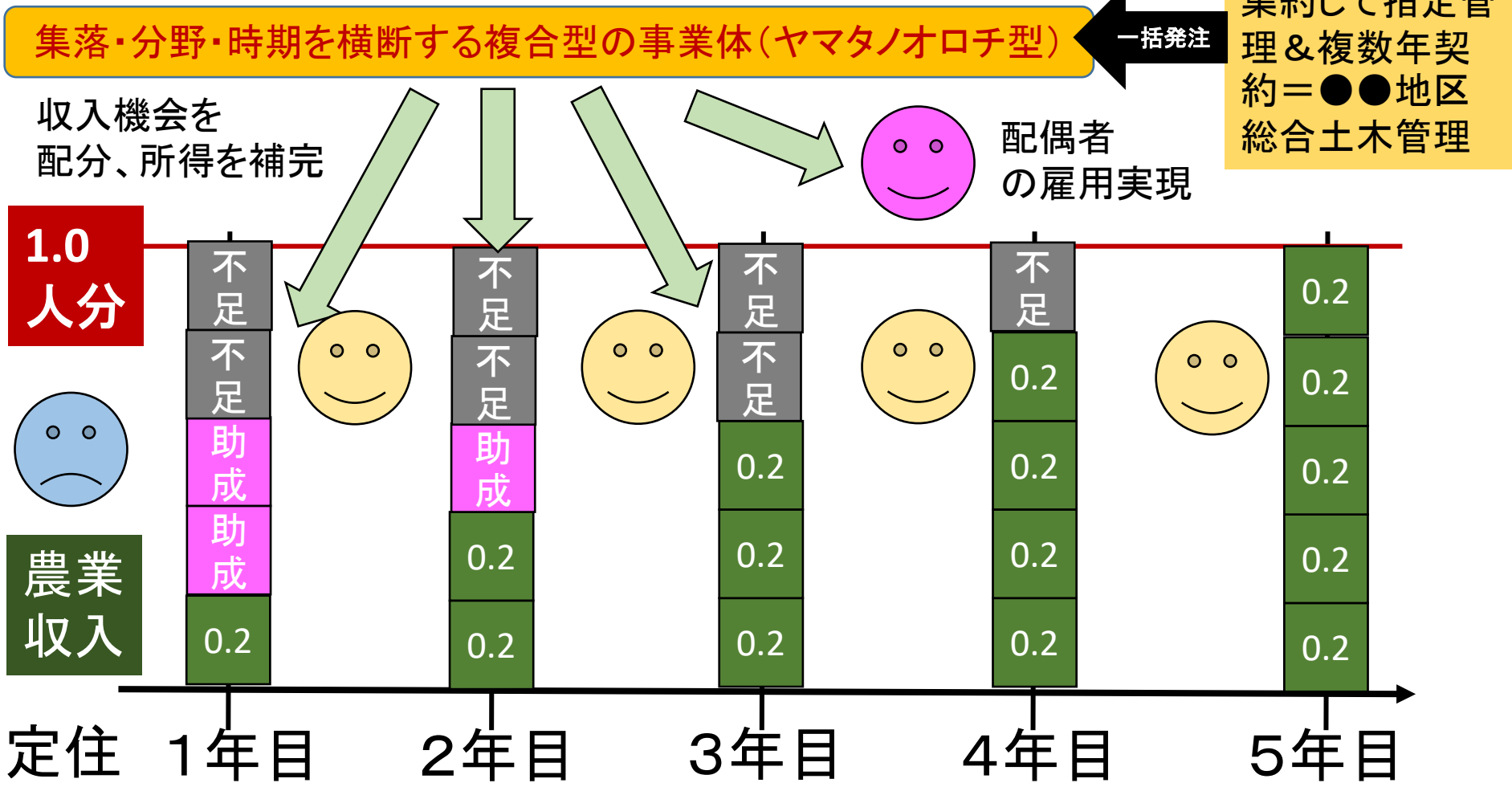
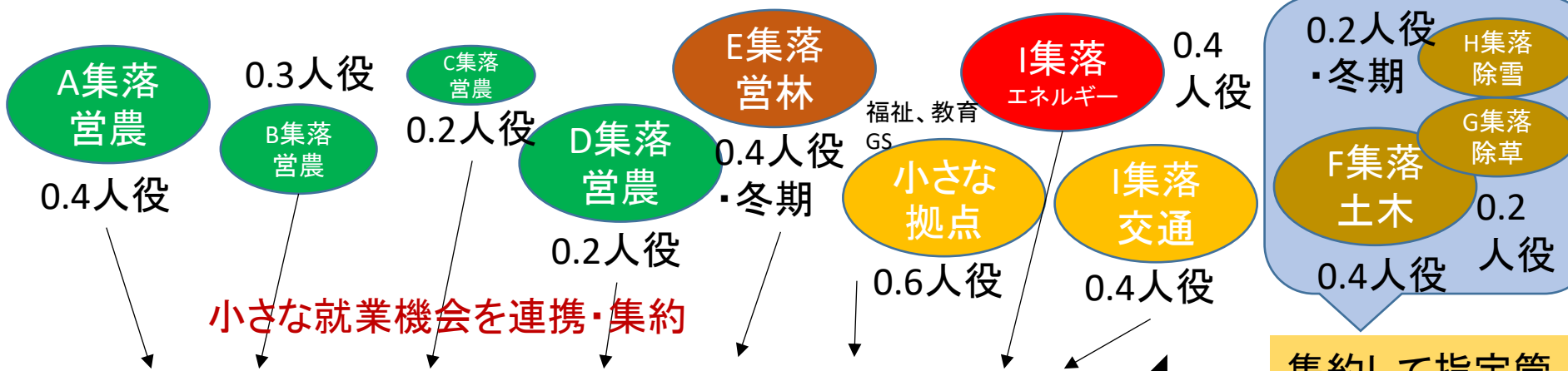
パン屋も出来た！



定住の窓口機能も併設



起業支援
でパン屋も
オープン



過疎地域で雇用増を目指す新法が施行へ(今年6月) 「特定地域づくり事業推進法」



地元の若者
移住者等



雇用 ↓ ↑ 給与

国・市町村

運営費の半額助成

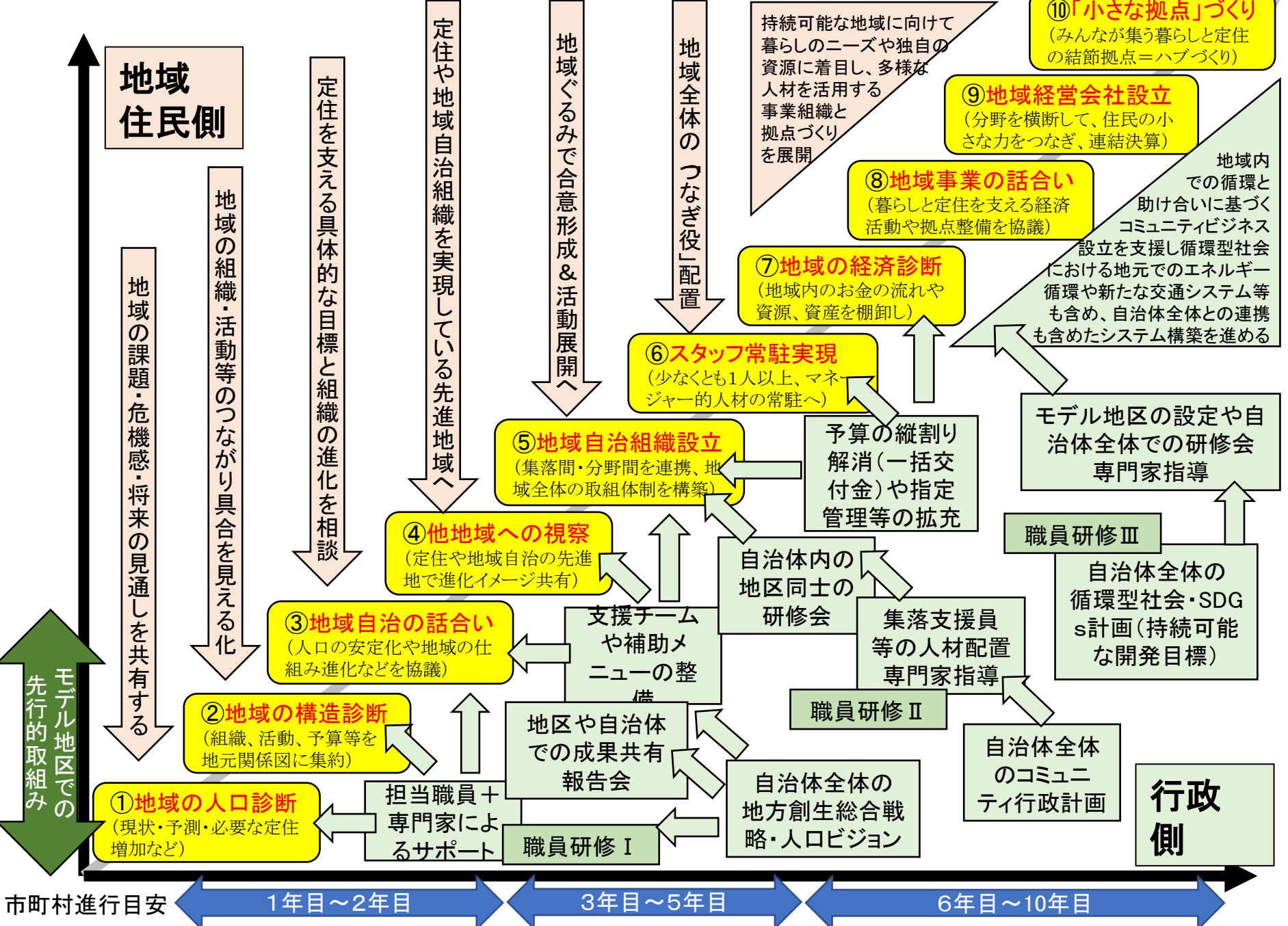
特定地域づくり
事業協同組合

人材派遣

地域の事業者
(農林業業、建設業、観光、酒造業、
地域経営会社)

料金

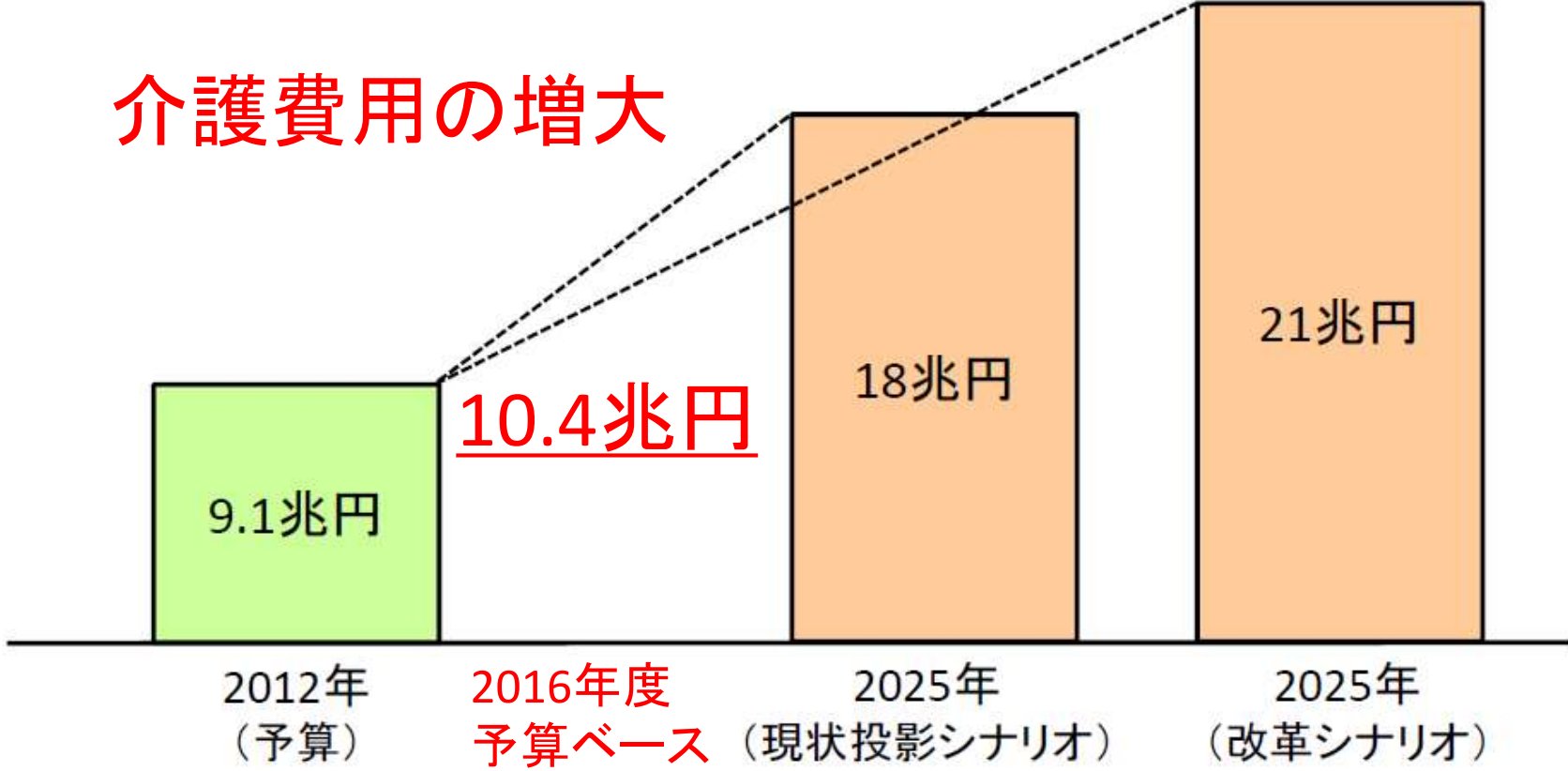
持続可能な地域社会づくり 10のステップ イメージ



6. 地元ぐるみで介護を支える

現在約9兆円の費用が2025年には約20兆円に

介護費用の増大



※ 医療の費用は41兆円(2012年)から61~62兆円程度(2025年)になる。

(資料) 社会保障に係る費用の将来推計の改定について(平成24年3月)をもとに作成
(注) 介護費用には、地域支援事業に係る費用を含む。

平成26年10月8日「はたマーケット」オープン！

人口340人の波多地区に新たな商業拠点がオープン



多くの皆様のご支援によりオープンすることができました。

*平成27年2月12日 小さな拠点」全国フォーラム発表資料より

はたマーケット販売業務

波多交流センター職員

雲南市からの交付金で波多コミュニティ協議会が雇用しています。



交流センター事務室では
普段の仕事をします。



職員4人が役割り分担をして、普段の業務とはたマーケットをやりくりしています。
会長も運営手続き、送迎などで大忙しです。
やっと慣れてきた運営ですが、まだまだこれからです。地域の皆さんと一緒に盛り上げていきたいと思っています。

地域内交通「たすけ愛号」

交通

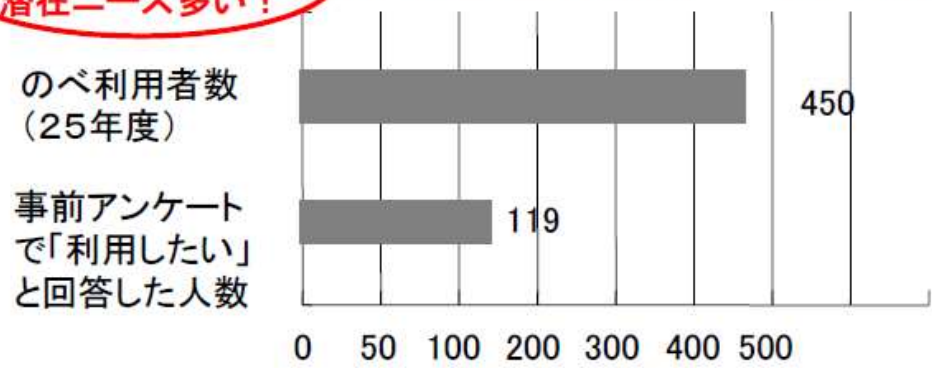
車を持たない高齢者の方、一人暮らしの方より、手軽に頼める交通機関があれば嬉しいとの要望より「たすけ愛号」の運行が始まりました。

はたマーケットオープンにより買い物に来られた方の送迎を「たすけ愛号」で行っています。
買い物をしていただいた方は無料となっています。
買いに来られない方は、注文取って配達をします。
運転は、交流センター職員でおこなっています。



リピーター多い！
潜在ニーズ多い！

「たすけ愛号」の利用ニーズと実績



利用用途：診療所、マーケット、温泉、バス停、知り合い宅へなど

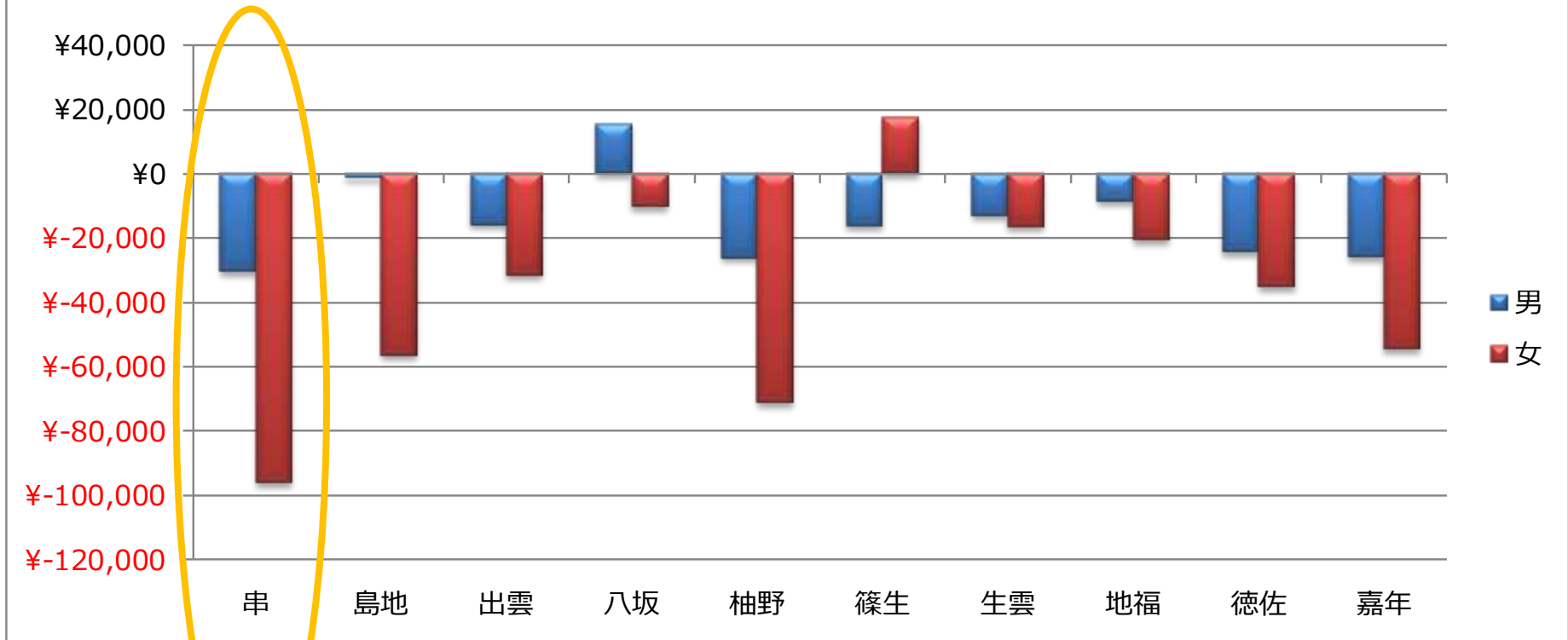
人口1,000人で、年間2億円前後の介護費用

地域	人口	高齢化率	要支援・ 介護者数	同人口比	介護費用 総額 (万円)	住民1人 当たり (万円)
山口市	193,287	28.2%	14,207	7.4%	1,527,660	7.9
串	344	63.1%	52	15.1%	6,740	19.6
島地	1,292	49.9%	151	11.7%	19,582	15.2
出雲	2,720	40.5%	255	9.4%	34,135	12.5
八坂	1,453	53.0%	210	14.5%	30,762	21.2
柚野	316	58.5%	52	16.5%	6,789	21.5
篠生	853	53.7%	110	12.9%	16,668	19.5
生雲	1,056	58.0%	157	14.9%	24,530	23.2
地福	1,211	49.7%	132	10.9%	21,029	17.4
徳佐	2,362	50.4%	240	10.2%	35,403	15.0
嘉年	415	65.3%	57	13.7%	10,409	25.1
山間総合	12,022	51.1%	1,416	11.8%	206,047	17.1

1人当たり10~20万円、最大の「産業」!

山口市中山間地域における1人当たり介護費用の全国平均との差額

図⑱-2 地区別 介護費用・認定者率が全国平均になった場合の介護費用の差額（人口1人当たり）

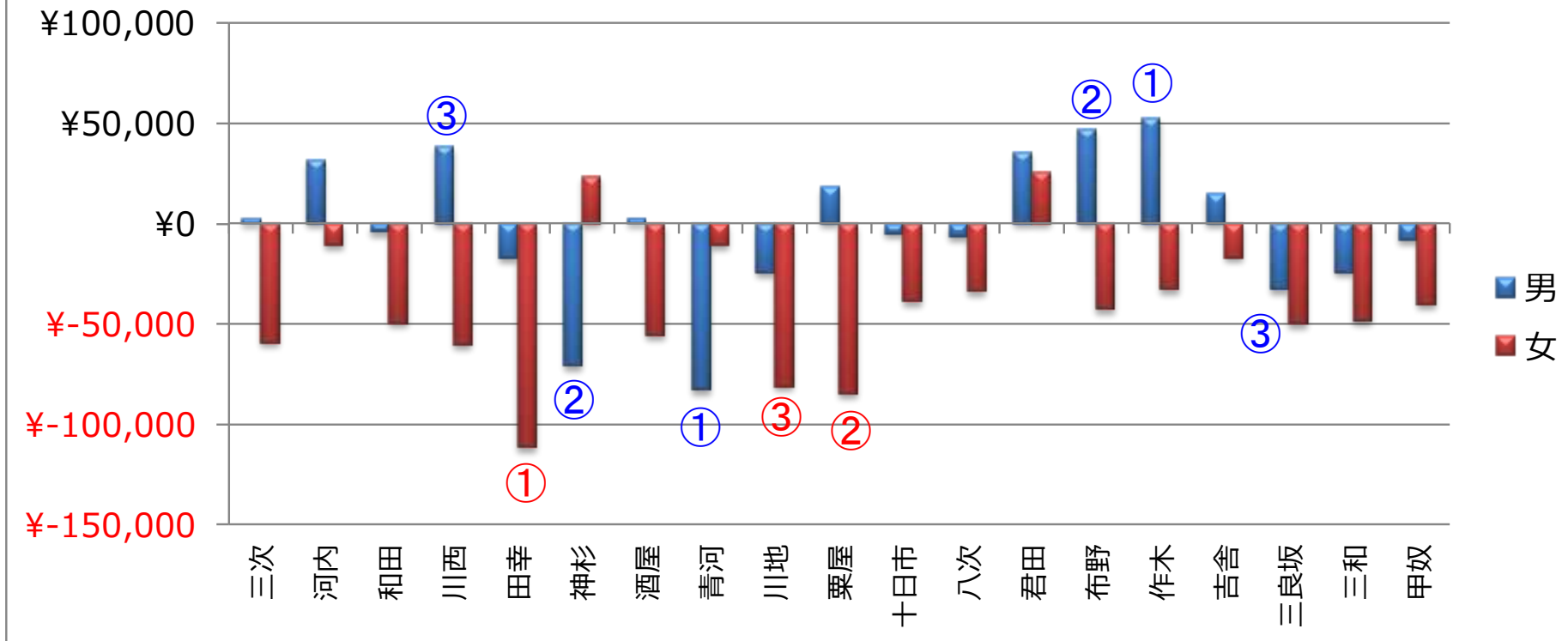


一番お達者な串地区の女性は、1人平均96,000円浮かしている！

地域内のつながり、活動野菜の共同出荷
→小さな出番、役割

●三次市・地区別の「お達者度」～全国平均の年齢階層ごとの認定者率・介護度の違い～を反映した場合の介護費用の1人当たり差額

図⑱-2 地区別 介護費用・認定者率・介護度が全国平均になった場合の介護費用の差額（被保険者1人当たり）



地区ごとの男女別の総合的な「お達者度」を反映

●女性高齢者(70~80代)の営農価値を計算し直す

今までの「縦割り」評価

農業部門のみ＝野菜の売上げ
月3万円×12か月＝36万円
＜手取り所得 18万円＞

これからの「合わせ技」評価

元気に日々農業するので、
介護費用 148万円
(80代前半女性認定者平均、全国)
医療費 89万円
(80代前半男女平均、全国)
を浮かせている！！

合計数百万円の費用削減



地域全体をつなぎ、
得」を大きくする

